

DENON

SERVO-CONTROLLED DIRECT DRIVE TURNTABLE SYSTEM

ダイレクトドライブサーボターンテーブルシステム

DP-57L/DP-57M

(オートリフト)

(マニュアル)

取扱説明書



DP-57L



DP-57M

本機の特長を十分に発揮してご使用いただくために、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しい操作で末永くご愛用くださいますようお願いいたします。尚、万一ご使用中にわからないことや不具合が生じたときのために、お読みになったあと必ず保存してください。

目次

特長	1	演奏方法	8
ご使用になる前に	1	主な仕様	9
このセットを安全に		故障？ちよつとお調べください	10
ご使用いただくためのご注意	2	保証とサービスについて	10
各部の名称と働き	3	コロムビアサービス網一覧表	11
組立	4		
接続	6		
調整	7		

梱包箱の中には本体と別に次の品物が入っていますので、ご確認ください。

① ターンテーブルシート	1	⑦ シェルアクセサリ	1
② ターンテーブル	1	⑧ ドライバー	1
③ タストカバー	1	⑨ 45回転レコード用アダプター	1
④ ウェイトリング	4	⑩ ご愛用者登録カード	1
⑤ ストレートアームパイプ	1	⑪ 取扱説明書	1
⑥ S字型アームパイプ	1	⑫ 保証書	1

特 長

1. Qダンピング方式の採用

(ダイナミックサーボトレーサー)

カートリッジのコンプライアンスとトーンアームの実効質量による低域共振を水平、垂直両方向共に電子的にダンピングし、クロストークの悪化や混変調ひずみの増加を効果的に抑制して、軽量アームの特長を最大限に発揮させ、音像定位が良く、雑音やひずみの少ないレコード再生を実現しました。

2. ラミネーションダンプトヘッドシェル搭載の軽質量ストレートアームパイプ

ヘッドシェルを二重構造にすることにより、シェルの共振を低減し、又、軽質量のストレートアームパイプにより、トレース能力も向上し、音像のしつかりしたクリアな音が再生できます。

3. 音響特性の優れた厚肉ターンテーブル

厚肉ターンテーブルの採用により、外乱振動によるターンテーブルの振動を大巾に低減し、クリアな音が再生できます。

4. 高回転性能の実現

高性能ACサーボモーター、磁気記録検出方式による速度検出、クォーツロック、さらに両方向サーボの採用により、ワウ・フラッター0.008%wrms(回転系)、SN比82dB(DIN-B)、回転精度0.002%という高回転性能を得ています。

5. 無接触エンド検出方式によるオートリフト機構を採用(DP-57L)

レコードの演奏が終ると、針先は自動的にレコード盤から上がり、ターンテーブルの回転が停止するオートリフト機構がついていますので、レコードの終了に気付かず、不注意に針先を摩耗させる心配はありません。

6. 優美な仕上げの木製キャビネット

7. 標準4Pコネクター付S字型アームパイプとの交換可能

ご使用になる前に

ご使用になる前に次のことにご注意ください。

●保証書の手続きを

お買い求めいただいた際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でもサービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、十分にご注意願います。

●セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防止するために、必ず電源プラグを抜き取り、他のオーディオ機器との接続コードを取り外してから移動させてください。

●電源スイッチを入れる前に

各部の接続に間違いはないか、接続コードに異常はないか、今一度確認してください。接続コードを抜き差しする場合も必ず電源スイッチを“off”にしておこなってください。

●チューナーに雑音が入るとき

本機をご使用中にチューナーに雑音が入る場合には、離してお使いください。

●モーターに注油は不要

モーター軸受部には特殊オイルが注入されていますので、注油の必要はありません。

●保管をしてください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

●説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります

【ステレオ音のエチケツト】

- ◎楽しい音も、時と場所によっては気になるものです。
- ◎隣り近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- ◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

- ◎特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。
- ◎夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
- ◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
- ◎お互に心を配り、快よい生活環境を守りましょう。

後日のために記入しておいてください。

購入店名： _____ 電話(-) _____

ご購入年月日：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

このセットを安全にご使用いただくためのご注意

〈高温にご注意〉

- 長時間、直射日光を受ける所や、暖房器具の近くには放置しないでください。(変形・変色・故障の原因となることがあります)
また、放熱をよくするため壁から10cm以上離して置いてください。



〈内部に異物を入れない〉

- セットのすき間や内部に縫い針やヘアピン、硬貨などの金属物が入りますと、感電や故障の原因になりますのでさけてください。
屋外でご利用の場合、置く場所にご注意ください。



〈湿気や水、ホコリは禁物〉

- 湿気の多い場所やホコリの多い場所に置きますと故障の原因になる場合があります。
また、あやまって内部に水が入ると故障や事故の原因となりますのでお気をつけください。



〈殺虫剤や化学雑きんは大嫌い〉

- 一般市販の殺虫剤、ベンジン、シンナーなどが付着しますとキャビネットが変色したり、変形しますのでご注意ください。
また、ほこりなどをふきとるときは、やわらかい布を使い、化学雑きんの使用はさけてください。



〈電源コードは大切に〉

- 電源コードは傷つけないよう大切にお使いください。傷がついた電源コードを使用することは危険です。
- プラグを抜くときは、電源コードを引っばらないで必ずプラグを持って抜いてください。



※本機は国内仕様です。必ずAC100Vの電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

〈キャビネットは開けない〉

- キャビネットや底ぶたを開けて内部に手を入れますと危険ですので、開けないでください。
万一、不都合が生じた場合には、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げ店、又は最寄りの当社営業所にご相談ください。



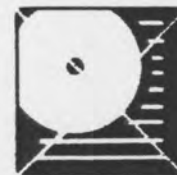
〈留守にするとき〉

- 外出、旅行などで長時間ご使用にならないときは、必ずプラグをコンセントから抜いてください。

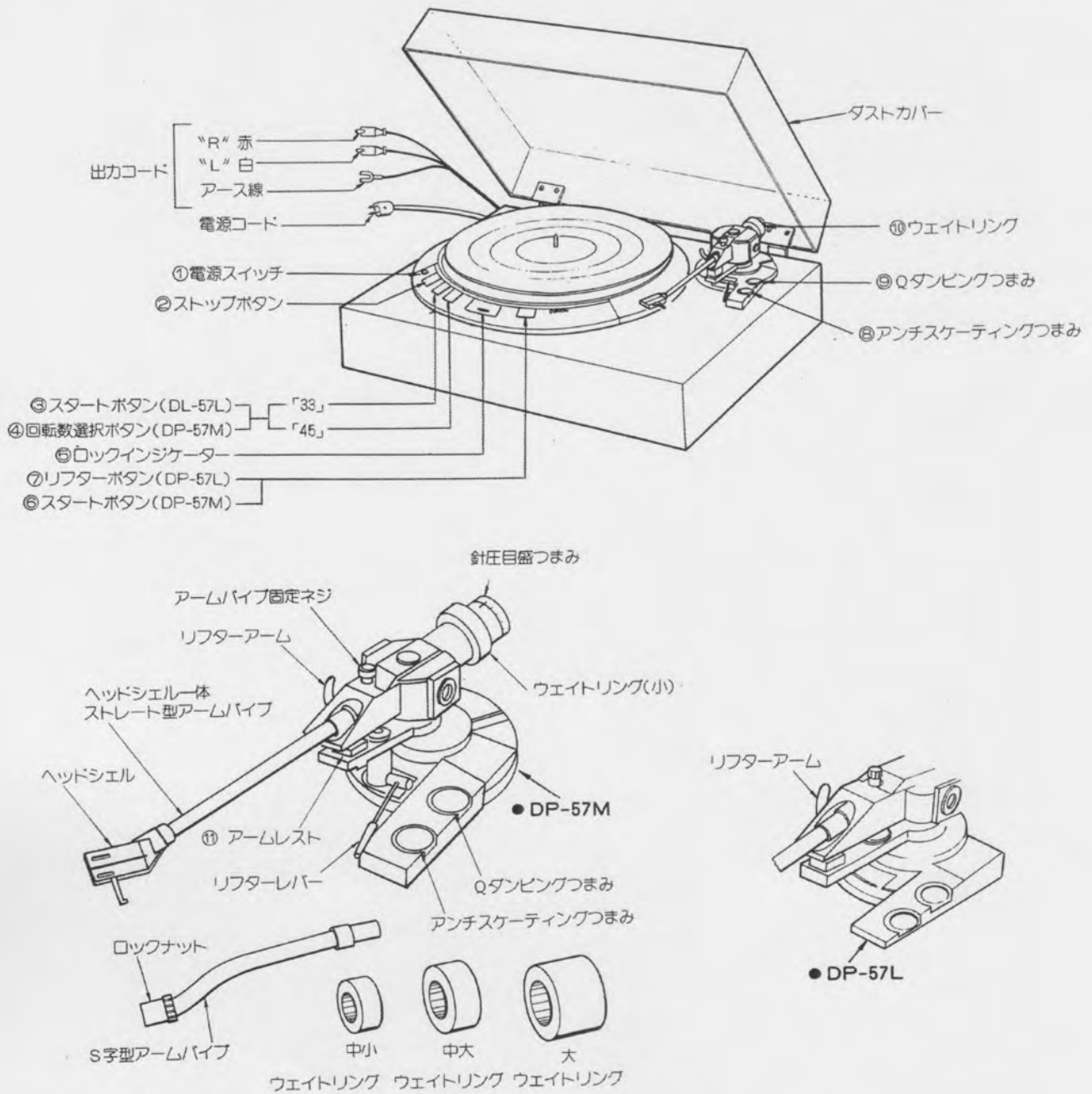


〈セットの風穴に物を置かない〉



- セットの風穴に物(カセットケースなど)を置くとセット内温度が上がり、故障の原因になります。




各部の名称と働き



1 電源スイッチ POWER

スイッチを押すと (on ) 電源が入り、ストップボタンが点灯します。再度押すと (off ) 電源が切れ、ランプが消えます。

(アームリフターが下りた状態で、電源スイッチを on() にしますと、アームリフターは上がりません。DP-57L)

2 ストップボタン STOP

● DP-57L
このボタンを押すと、リフターボタンのランプが消えアームリフターが上昇し、僅かな時間遅れて「33」または「45」のボタンのランプが消え、ストップボタンのランプが点灯し、ターンテーブルが停止します。

● DP-57M
スタートボタンのランプが消え、ストップボタンのランプが点灯し、ターンテーブルが停止します。

3 スタートボタン 33-START-45

● DP-57L
33 $\frac{1}{8}$ 回転レコードの時は「33」
45 回転レコードの時は「45」
を押してください。ボタンを押すと、ボタンのランプが点灯すると同時にターンテーブルがスタートし、同時にリフターボタンが点灯しアームリフターが下がります。

4 回転数選択ボタン 33-45

● DP-57M

33 $\frac{1}{2}$ 回転レコードの時は「33」

45 回転レコードの時は「45」

を押してください。ボタンを押すとランプが点灯します。

5 ロックインジケータ

ターンテーブルが規定回転の状態にあるときに、LOCK表示が点灯します。スタート・ストップ時など、ターンテーブルが規定回転の状態にないときは点滅します。停止の状態では消えています。

6 スタートボタン START

● DP-57M

ボタンを押すとランプが点灯し、規定回転数で回転を始めます。

7 リフターボタン LIFTER up/down

● DP-57L

ボタンを押すたびに、アームリフターが上下し、リフターダウン時にランプが点灯します。

8 アンチスケーティングつまみ

レコード演奏時、針先が内周へ引っぱられる力が発生しますが、このつまみを調整することで、その力を弱めます。

9 Qダンピングつまみ Q DAMPING

針圧と同じ数値の目盛を基準線に合わせることで、最適なダンピング量の設定ができます。

10 ウェイトリング

トーンアームの0バランスをとるのに使用します。

11 アームレスト

ヘッドシエルのフィンガーを持って左に移動しますとトーンアームのロックがはずれます。固定する時はこれと逆に行なってください。

組立

組立てが完了するまで、電源コードは接続しないでください。

1. ターンテーブルの取付け

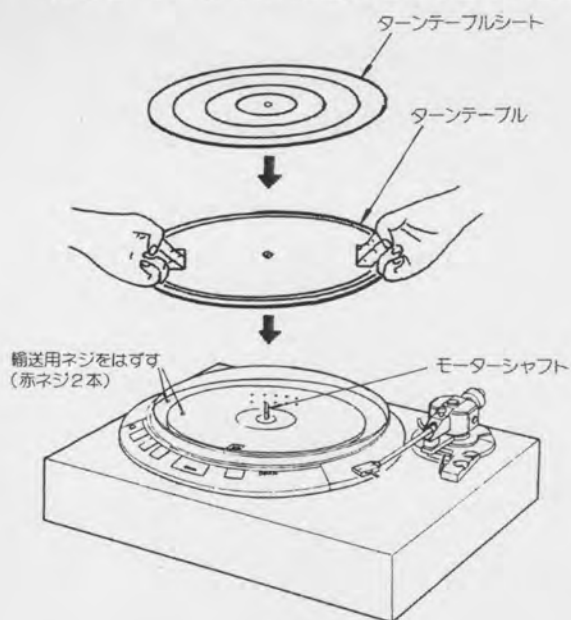
① 輸送用赤ネジ2本をはずしてください。(第1図)

② 第1図のように、ターンテーブルの2個所の穴に指をかけてモーターシャフトに静かに差込みます。

なお、取外す場合は、同じ要領で上げます。

注：ターンテーブルの磁気コーティング面(下面黒色塗装部)には、スピード検出用のパルス信号が記録されていますので、傷をつけないように注意して取扱ってください。

③ ターンテーブルを取付けたのち、ターンテーブルシートをモーターシャフトに合わせてのせてください。



[第1図]

2. アームパイプの使い分け

① ストレート型アームパイプ

現在市販されているほとんどの単体カートリッジが使用になれます。

また、ストレート型アームパイプで複数のカートリッジをご使用になる場合は、別売のPCL-67ストレート型アームパイプをお買い求めになると、カートリッジ交換が簡単です。

PCL-67のパイプ(黒色仕上げ)は、音響特性の優れた特殊軽合金を熱処理したHTパイプを使用しています。ご希望の際は、お買上げの販売店かお近くの弊社営業所、出張所へご相談ください。

② S字型アームパイプ

シエラ一体型カートリッジの場合、またはお好みのシエラをお使いになる場合にご使用ください。

③ カートリッジ自重との関係

ストレート型アームパイプ、S字型アームパイプにはそれぞれ専用のウェイトリングを使用するようになっています。(ウェイトリング取付けの項参照)

この時、ご使用になれるカートリッジの重量(ヘッドシエル等の重量も含む)と、アームパイプとの関係は第1表のようになっております。

アームパイプ	適合重量範囲
ストレート型アームパイプ	約4~15g (取付ネジ、ナットを含む)
S字型アームパイプ	約11~20g (ヘッドシエル、取付ネジ、 スペーサー、ナットを含む)

第1表

3. トーンアームの組立て

ストレート型アームパイプの場合

①アームパイプの取外し、取付け

- ①アームパイプを取外す場合は第2図のようにアームパイプ固定ネジを矢印の方向へ半回転ゆるめ、アームパイプのコネクター部分を持って手前に引抜いてください。
- ②アームパイプを取付ける場合は、アームパイプのコネクター部分のガイドをアーム本体のガイド溝に合せて差込み、アームパイプ固定ネジを矢印と反対方向に回し、アームパイプとアーム本体をしっかりと固定します。

注：このネジはゆるめていきますとアーム本体より外れますが、着脱の際には約半回転ゆるめれば、アームパイプは簡単に抜けますので外れるまでゆるめる必要はありません。

②カートリッジの取付け

- ①アームパイプを取外し、第3～6図を参照され、ヘッドシエル部にカートリッジを取付けてください。取付用として長さの違う2種類のネジが付属していますから、カートリッジに合った長さのネジを選び取付けてください。
 - ②カートリッジを取付ける際に、多少動く程度に軽くネジ止めしておき、第3図のようにヘッドシエル部後端より50mmの位置に針先がくるようにカートリッジを前後に動かして調整します。次にカートリッジがシエルに対して平行になるよう(第4図)、また垂直になるように(第5図)調整してから、しっかりとネジを締め固定してください。
- 注：この時針先位置が1mm程度前後しても性能上問題ありません。
- ③ヘッドシエル部のリード線は第6図のように色別けされていますので、カートリッジの表示またはカートリッジの説明書を参考にして、それぞれ対応するカートリッジの端子にピンセットなどを使ってしっかりと接続します。

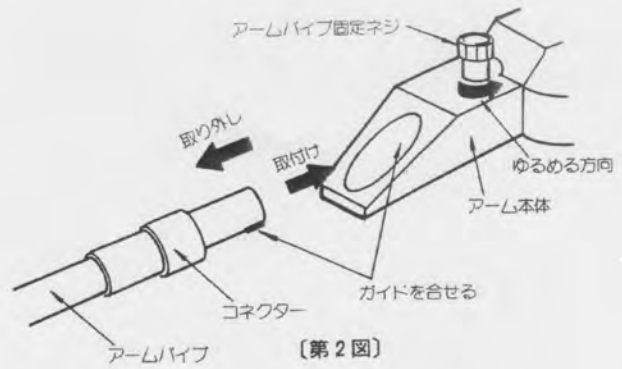
③ウェイトリングの取付け

- ①本機にはバランス用ウェイトとして4種類のウェイトリングを付属しております。それぞれのウェイトリングとバランスするカートリッジ(取付ネジ、ナット、スペーサ等を含む)の重量はほぼ次の表になります。

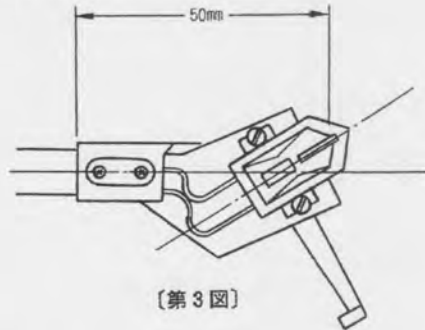
ウェイトリング	ストレート型アームパイプ	S字型アームパイプ
小	約4～6g (取付ネジ、ナットを含む)	
中小	約6～10g (取付ネジ、ナットを含む)	
中大	約10～15g (取付ネジ、ナットを含む)	約11～15g (ヘッドシエル、取付ネジ、スペーサ、ナットを含む)
大		約15～20g (ヘッドシエル、取付ネジ、スペーサ、ナットを含む)

注：表記以上の重量カートリッジについては、2個のウェイトリングを組合せることにより、バランスを取ることができます。

- ②ウェイトリングは第7図のように針圧目盛後部よりウェイトスリーブに差し込んでください。
- ③ウェイトリングはウェイトスリーブ上をスムーズに動くように調整してありますが、動きが重かったり、ゆるすぎる場合はウェイトリング調整ネジをドライバーにてスムーズに動くよう調整してください。



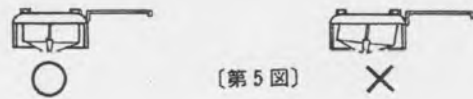
【第2図】



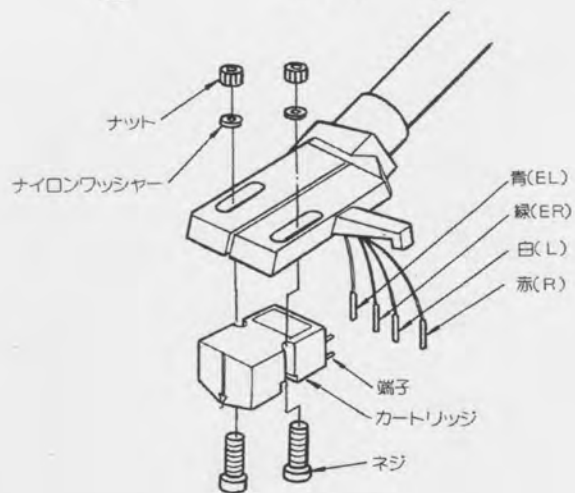
【第3図】



【第4図】

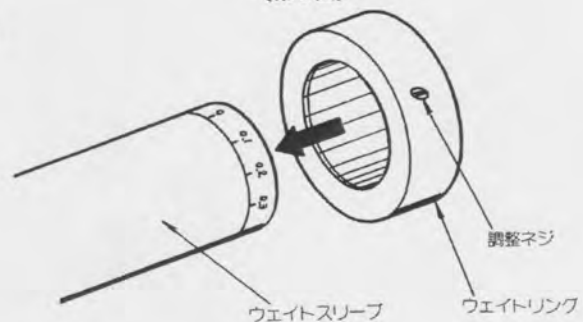


【第5図】



【第6図】

第2表



【第7図】

S字型アームパイプ使用の場合

①アームパイプの取付け、取外し

ストレート型アームパイプの取外し、取付けの項をご参照ください。

②ヘッドシェルとカートリッジの取付け

お手持のヘッドシェルにカートリッジを取付ける際には、第8図のようにヘッドシェル取付端面（ゴムワッシャー部）より50mmの位置に針先がくるように、カートリッジを前後に動かして調整します。

次にカートリッジがシェルに対し平行かつ垂直になるように調整してから、しっかりとネジを締め固定してください。

③ヘッドシェルのトーンアームへの取付け、取外し

①第9図のようにヘッドシェルコネクター部分のガイドピンをアーム先端のスリットに合わせて差込みます。

②ロックナットを第9図の矢印の方向へ止まるまで回し、ヘッドシェルとアームをしっかりと固定します。この際アーム軸受部に過負荷がかからないように注意してください。

③ヘッドシェルを外す場合は、ロックナットを矢印と反対方向に回し、軽く引抜いてください。

④ウェイトリングの取付け

取り付け方法は前記ストレート型アームパイプのウェイトリング取り付けの項をご参照ください。(第2表)

4. ダストカバーの取付け

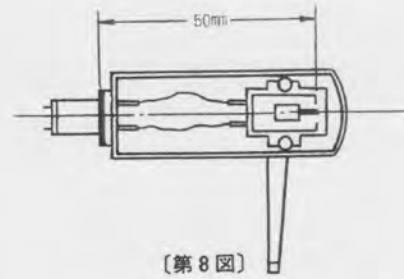
ダストカバーの金具の溝をヒンジの突起に合わせ、第10図の矢印の方向に十分押し込んでください。また、取外す場合は、ダストカバーをいっばいに開け、矢印と反対方向に引抜いてください。

注：ダストカバーの金具を十分にヒンジに押し込みますと、ダストカバーが完全に閉まらなくなりますのでご注意ください。また、ダストカバーの取付け、取外しの際は、ダストカバーの金具の近くを持つようにしてください。

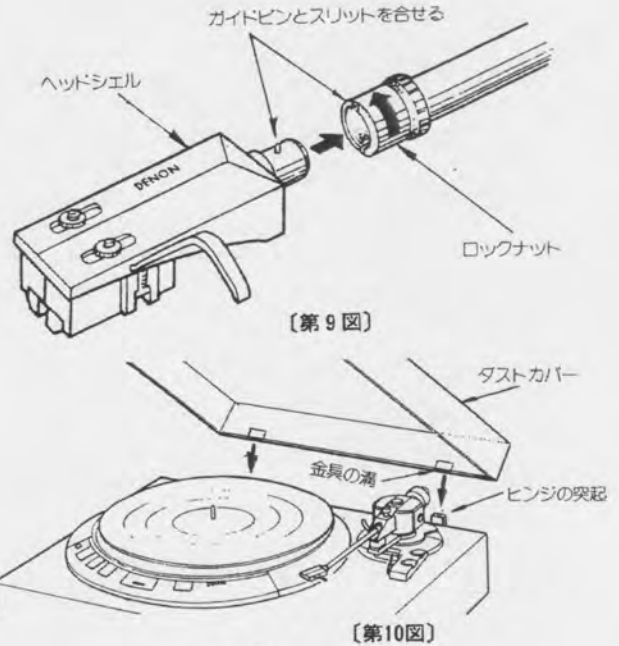
5. インシュレーターの高さの調整

このプレーヤーのインシュレーターは、手で回すことにより、それぞれ高さを調整できるようになっています。(第11図)

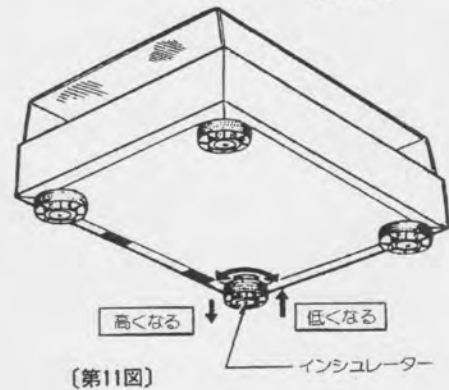
ご使用になる場所に置いて、ターンテーブルシート面が水平になるように、それぞれのインシュレーターの高さを調整してください。



〔第8図〕



〔第10図〕



〔第11図〕

接 続

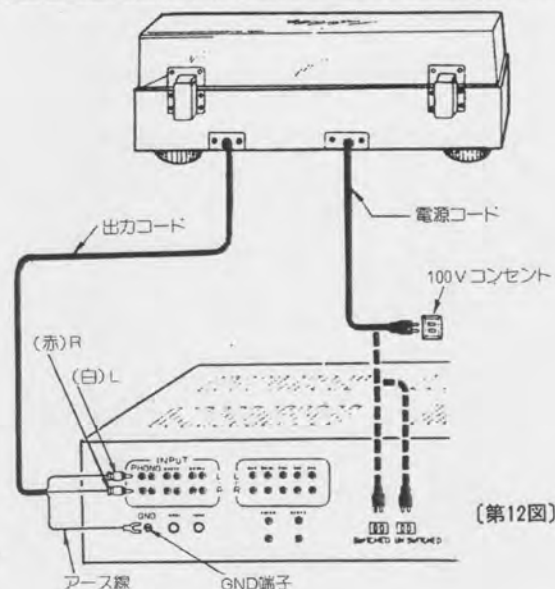
ご使用になるアンプの電源スイッチは必ず off の状態にして、第12図のように接続してください。

①出力コードのピンプラグの赤(R)、白(L)を、アンプの「PHONO」端子のジャックR、Lにそれぞれしっかりと差込みます。

注：カートリッジの種類によっては、ステップアップトランスやヘッドアンプ等を必要とする場合がありますので、アンプおよびカートリッジの取扱説明書を参照してください。

②出力コードのアース線のY型ラグを、アンプの GND (アース) 端子にしっかりと固定します。

③電源コードのプラグを交流 100 V のコンセント、または、ご使用のアンプの AC アウトレットへ差込みます。この時、アンプ等の取扱説明書を参照し、AC アウトレットの電力容量が十分であることを確認してください。



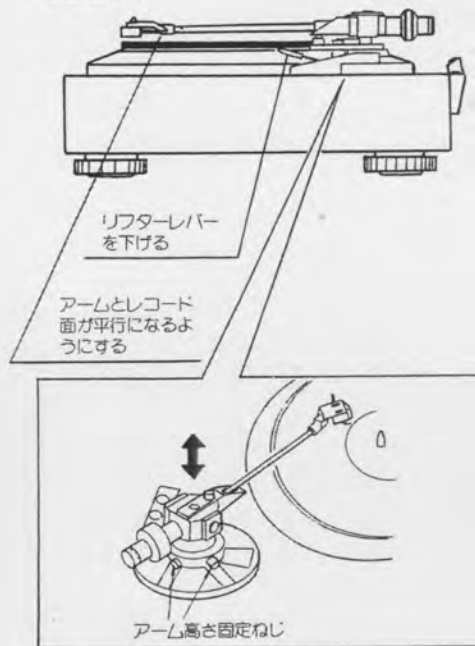
〔第12図〕

1. トーンアームの高さ調整

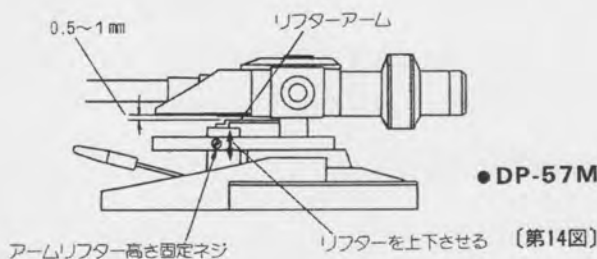
レコード盤上に針先を置き、レコード面とアームパイプがほぼ平行になっているかを確認してください。平行になっていない場合は、アームをアームレストにもどし、第13図のように付属のドライバーでアーム高さ固定ネジをゆるめ、アームを上下させてレコード面とアームパイプがほぼ平行となるように高さの調整を行なってください。

調整後は、ゆるめたネジをしっかりと締付けてください。

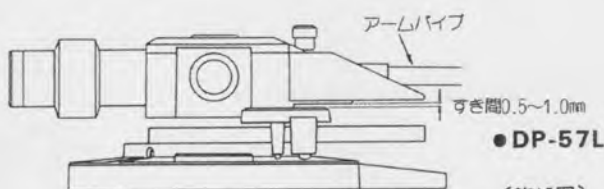
注：アームリフターは出荷時に調整されていますが、万一リフターアームが正常に動作しているにもかかわらず、リフターを上げてもカートリッジの針先がレコード盤に触れている場合、また下げてもカートリッジの針がレコード盤上に降りきらない場合には第14・15図のように、アームリフター高さ固定ネジをゆるめ、アームリフターを上下し、リフターを下げて針先をレコード盤におろしたとき、リフターアームとアーム本体のスキ間が0.5mm～1mm離れるように調整してください。終わりましたら、ゆるめたネジはもとどおりしっかりと締めてください。



【第13図】



【第14図】



【第15図】

2. 針圧の調整

つぎの手順で適正針圧に調整してください。ストレート型アームパイプ、S字型アームパイプとも同じ手順にて調整することができます。

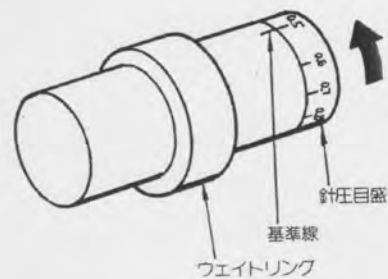
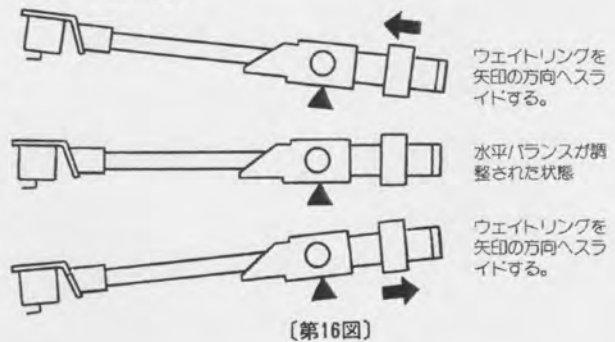
注：針カバーが取外せるカートリッジの場合は、針カバーを取外して調整してください。

① アンチスケーティングつまみを「0」目盛に合わせてください。針圧目盛は3回転しますので、針圧目盛を第17図の矢印と反対の方向へ回し最後に一致する「0」に合わせてください。

② ご使用になるカートリッジの重量に合わせたウェイトリング(第2表参照)を選び前項の順序に従いウェイトリングを取り付けてください。リフターアームを下げた状態でアームをアームレストから外します。次にウェイトリングを前後にスライドさせ、アームが水平にバランスするようにします。(シェル側が下がる場合はウェイトリングを後方へスライドさせ、シェル側が上がる場合は手前へウェイトリングをスライドさせます。)(第16図)

注：水平バランスを調整した時アームが左右に流れる場合がありますが、これは軸受に高感度のベアリングを使用しているため故障ではありません。

③ 針圧目盛つまみを第17図の矢印の方向に回し、カートリッジの適正針圧と同じ数値の目盛をアームの基準線に合わせてください。針圧目盛は1回転1gで3回転、3g迄の針圧を加えることができます。例えば2.5gは2回転半針圧目盛つまみを回してください。(第17図)



【第17図】

3. アンチスケーティングの調整

アンチスケーティングつまみを回し、基準線にカートリッジの針圧と同じ数値を合わせてください。適正なアンチスケーティング量が得られます。第18図は針圧が1.5gの場合を示しています。

4. Qダンピングの調整

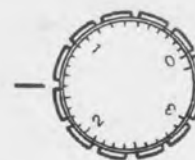
Qダンピングつまみを回し、基準線に針圧と同じ数値を合せてください。適正なQダンピング量が得られます。(第19図)

★Qダンピング量はカートリッジのコンプライアンスによって適正値が異なりますが、本機は針圧と同じ数値に合わせてると最適なダンピング量になるように設定されています。



ANTI SKATING

〔第18図〕



Q-DAMPING

〔第19図〕

電波周波数の異なる地域でご使用になる場合

このプレーヤーは、50Hz、60Hz 共用です。

ご転居などによりご家庭の電源周波数が変わる場合でも、そのままご使用になれます。

演奏方法

DP-57L

1. 演奏を開始するとき

- ① リフター表示が消えていることを確認します。
(もし点灯している時は、リフターボタンを押し、アームリフターを上げておきます。)
- ② トーンアームを演奏位置へ移動させ、スタートボタンを押すと、ターンテーブルが回転し、アームリフターが下がり、針先がレコード面に下りて、演奏を開始します。

注：アームリフターを用いずに、手で針先をレコード面に下ろす場合は、先に、スタートボタンを押してください。

2. 頭出しスタート(スタンバイスタート)するとき

- ① 先ずリフターボタンにより、アームリフターを下げます。
- ② 針先を曲の始まり付近に下ろし、手でターンテーブルを回して曲の始まりを探します。
- ③ 曲の始まりが確認できましたら、ターンテーブルを半回転から1回転位逆方向に戻します。
- ④ スタートボタンを押すと、ターンテーブルは回転し、演奏が開始されます。

3. 演奏を終了するとき

レコードの演奏が終ると、オートリフト機構が動作し、アームリフターが自動的に上がり、針先はレコード面から上がって、ターンテーブルの回転が止まります。

4. 途中で演奏を止める場合

ストップボタンを押してください。アームリフターが上昇し、針先がレコード面から離れると、ストップボタンのランプが点灯し、ターンテーブルの回転が止まります。

なお、ターンテーブルを回転させたまま針先を上げる場合は、リフターボタンを押してください。アームリフターが上がり、針先がレコード面から離れます。

DP-57M

1. 演奏を開始するとき

- ① スピード切換ボタン「33」または「45」のボタンを押しますと、押したボタンのランプが点灯し回転数を選択されます。
- ② スタートボタンを押すとランプが点灯し、選択した回転数で回り始めます。
- ③ リフターレバーを上げヘッドシエルの指かけを持ち、トーンアームをレコード盤の演奏位置まで移動させます。
- ④ リフターレバーを下げますとトーンアームがゆつくりと降下し、針先がレコード盤上におりて演奏を始めます。

2. 頭出しスタート(スタンバイスタート)するとき

DP-57Lと同様に行なってください。

3. 演奏が終了したとき、または途中で中止するとき

- ① リフターレバーを静かに上げてください。トーンアームが上昇し、針先がレコード盤から離れます。
- ② ヘッドシエルの指かけを持ってトーンアームをアームレストまで戻します。
- ③ トーンアームをアームレストに固定します。
- ④ ストップボタン(STOP)を押します。ボタンのランプが点灯し、スタートボタンのランプが消え、ターンテーブルの回転が止まります。

注：リフターレバーを下げた時、リフターレバーを手で押さえていますと構造上リフターは下がりません。手を離れたときからリフターは下がり始めます。

主な仕様 DP-57L、DP-57M

●フォノモーター部

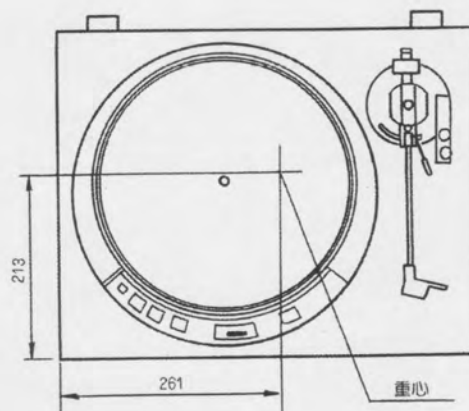
駆動方式	サーボ式ダイレクトドライブ
回転数	33 $\frac{1}{3}$ rpm. 45 rpm.
ワウ・フラッター	0.008%wrms以下(回転系) 0.02% wrms以下(JIS)
S / N	82dB以上(DIN-B)
起動時間	1.5秒以内で規定回転(33 $\frac{1}{3}$ rpm時)
ターンテーブル	アルミダイカスト 直径300mm 慣性モーメント 280kg \cdot cm ² (ターンテーブルシートを含む)
モーター	ACサーボモーター
スピード制御方式	周波数検出によるスピードサーボおよび位相サーボ
負荷特性	0% (針圧 150g 最外周)
ブレーキ方式	電子式ブレーキ
回転数偏差	0.002%以下

●トーンアーム部

形式	スタティックバランス形電子ダンピング機構付トーンアーム (パイプ部交換可能)
有効長	244mm
オーバーハング	14mm
トラッキングエラー	2.5°以内
針圧可変範囲	0~3g (1g/1回転1目盛 0.1g)
適合カートリッジ自重範囲	約4~15g (ストレート型アームパイプ時、 取付ネジ、ナットを含む) 約11~20g (S字型アームパイプ時、ヘッド シールド、取付ネジ、ナットを含む)
ヘッドコネクター	標準4Pコネクター (S字型アームパイプ)
アーム高さ調整範囲	約5mm
出カコード	低容量コード
アームリフター	アンギュラーコントロールモーター によるサーボコントロール(DP-57L) オイルダンブ式(DP-57M)

●総合

電源	AC 100V 50Hz/60Hz
消費電力	13W
寸法	(巾)485 \times (高さ)185 \times (奥行)410mm (ダストカバーを閉めたとき)
重量	11.5kg



※上記の仕様および外観は、改善のため今後変更されることがあります。

故障？ ちょっとお調べください

故障かな……と思ったら、ちょっと次のことをチェックしてみてください。

- 音が出ない……… ●カートリッジとヘッドシエルの接続は正しいですか…… ●5ページ第6図を参照
●アームパイプの差込みは確実にされていますか…… ●5ページ第2図を参照
●出力コードが正しくアンプに接続されていますか…… ●6ページ第12図を参照
●アンプのつまみ類の調整、切替えは正しいですか…… ●アンプの取扱説明書参照
- ハム雑音(ブーン)が出る…… ●アース線はアンプに接続しましたか…… ●6ページ第12図を参照
●ヘッドシエルはロックナットでしっかり固定されていますか…… ●6ページ第9図を参照
- 針とびを起こす……… ●針圧が指定針圧になっていますか…… ●7ページ参照
●アームリフターがアームに触れていませんか…… ●7ページ第14・15図を参照
●レコード盤がそつたり、キズが付いていませんか…… ●レコード盤を交換
●針先にほこりが多量についていませんか…… ●針先を清掃
- アームが途中で進まない…… ●アームリフターの高さは正しく調整されていますか…… ●7ページ第14・15図を参照
●レコード盤にキズが付いていませんか…… ●レコード盤を交換
●アームが何かに当たっていませんか…… ●アーム周辺を点検
- 針先がレコード盤におりない… ●針圧は正しく調整されていますか…… ●7ページを参照
●アームリフターとアームパイプのすき間がありますか… ●7ページ第14・15図を参照
- 音が小さい……… ●カートリッジの種類(出力)に適したアンプの接続、
切換えになっていますか…… ●6ページ第12図を参照

保証とサービスについて

1. このレコードプレーヤーには、保証書が添付されております。保証書は、所定事項を販売店で記入し、お渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ、大切に保存してください。
2. 保証期間は、お買上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買上げ販売店が修理を申し受けます。その他詳細につきましては、保証書をご覧ください。
3. 保証期間後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
4. このレコードプレーヤーの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、このレコードプレーヤーの機能を維持するために必要な部品です。
5. なお、保証および修理についてご不明の場合は、お買上げ販売店か、お近くの弊社「お客様相談センター」、または営業所、出張所(コロムビアサービス網一覧表をご参照ください)にご相談ください。

コロムビアサービス網一覽表

弊社製品についてのお問合わせ、アフターサービスについてのご相談は、お買上げ店または最寄りの下記営業所へご連絡ください。

郵便番号	所在地	電話	郵便番号	所在地	電話
○札幌電機営業所	060 札幌市中央区北三条東2-2	TEL 札幌 011(241)1541	○名古屋電機営業所	450 名古屋市中村区名駅南1-18-11	TEL 名古屋 052(4)(583)1621
釧路出張所	085 釧路市川上町6-2	TEL 釧路 0154(23)0491	岡崎出張所	444 岡崎市六名本町1-9-8	TEL 岡崎 0564(53)2515
旭川出張所	070 旭川市一条1-3-右9	TEL 旭川 0166(26)2421	岐阜出張所	500 岐阜市一本道1-6 河合ビル1F	TEL 岐阜 0582(46)8571
函館出張所	040 函館市豊川町1-1-0	TEL 函館 0138(23)5668	四日市出張所	510 四日市市中町1-1-6	TEL 四日市 0593(52)8161
茶広出張所	080 茶広市東一条南7-2	TEL 茶広 0155(23)9291			
青森電機営業所	030 青森市青柳1-1-19	TEL 青森 0177(75)2781	金沢電機営業所	921 金沢市横川町6-1-4	TEL 金沢 0762(42)7151
八戸出張所	031 八戸市大字尻内町字鴨田5-1	TEL 八戸 0178(27)5325	富山出張所	930 富山市小泉町北部1-0-2	TEL 富山 0764(91)2301
秋田出張所	010 秋田市川尻御休町3-2	TEL 秋田 0188(63)3636	福井出張所	910 福井市宝永2-8-2-4	TEL 福井 0776(21)3959
○仙台電機営業所	980 仙台市片平1-3-30	TEL 仙台 0222(25)4341	○京都電機営業所	600 京都市下京区中堂寺庄の内町46-15	TEL 京都 075(314)2811-5
盛岡出張所	020 盛岡市上田3-7-24	TEL 盛岡 0196(23)6451-2	○大阪サービスセンター	542 大阪市南区南船場2-12-8	TEL 大阪 06(245)3081
山形出張所	990 山形市幸町7-3-4	TEL 山形 0236(22)7614	大阪中央電機営業所	542 大阪市南区南船場2-12-8	TEL 大阪 06(245)3061
郡山出張所	963 郡山市並木2-1-3-2	TEL 郡山 0429(32)3145	大阪電機営業所	542 大阪市南区南船場2-12-8	TEL 大阪 06(245)3071
石巻出張所	986 石巻市新内谷地3-7-2	TEL 石巻 02252(2)6518-9	和歌山出張所	641 和歌山市東高松2-9-3-6	TEL 和歌山 0734(26)1891
○新潟電機営業所	951 新潟市上大河通3-19-2	TEL 新潟 0252(23)6341	阪南出張所	590 堺市大浜北町3-110 ダイトクビル	TEL 堺 0722(21)7847
長岡出張所	940 長岡市日赤町2-4-4-0	TEL 長岡 0258(35)1755	○神戸電機営業所	651 神戸市中央区御幸通4-2-25	TEL 神戸 078(231)0451
松本出張所	390 松本市大手1-7-8	TEL 松本 0263(32)3637	姫路出張所	670 姫路市今宿1-5-7-1	TEL 姫路 0792(92)7775
長野出張所	380 長野市川合新田3767	TEL 長野 0262(28)6717	岡山電機営業所	700 岡山市野田3-1-0	TEL 岡山 0862(41)2657
宇都宮電機営業所	321 宇都宮市鏡2-4-3	TEL 宇都宮 0286(24)1511	倉敷出張所	710 倉敷市吉岡宇南川田2-6-9-6	TEL 倉敷 0864(22)6625
水戸出張所	310 水戸市栄町1-1-0-1-7	TEL 水戸 0292(27)3136-7	○広島電機営業所	730 広島市中区鞆町3-6-3	TEL 広島 0822(21)4321
土浦出張所	300 土浦市大町1-1-3-1	TEL 土浦 0298(21)9221-2	福山出張所	720 福山市沖野上町6-7-5 大黒ビル	TEL 福山 0849(22)2073
○関東電機営業所	330 大宮市宮原町2-1-2-7-1	TEL 大宮 0486(65)2431	徳山出張所	745 徳山市新宿通り3-2-1	TEL 徳山 0834(22)1051-3
高崎出張所	370 高崎市上佐野町字越越1089-1	TEL 高崎 0273(23)0220	松江出張所	690 松江市西津田町4-0-7-1-2	TEL 松江 0852(21)5440
熊谷出張所	360 熊谷市曙町1-5-3	TEL 熊谷 0485(21)1820	○四国電機営業所	760 高松市亀岡町1-6-0	TEL 高松 0878(61)4993
○千葉電機営業所	280 千葉市末広町3-1-7-1-7	TEL 千葉 0472(63)5921-4	松山出張所	790 松山市天山町1-4-9-1	TEL 松山 0899(31)3218-9
船橋出張所	274 船橋市習志野台5-1-1-7	TEL 船橋 0474(64)4124-6	高知出張所	780 高知市伊勢崎町7-1-8	TEL 高知 0888(72)4178-9
○東京サービスセンター	113 東京都文京区湯島3-16-1-1	TEL 東京 03(4)(832)5121	○北九州電機営業所	802 北九州市小倉北区馬場2-6-7	TEL 北九州 093(52)6581
東京中央電機営業所	113 東京都文京区湯島3-16-1-1	TEL 東京 03(4)(832)5111	大分出張所	870 大分市新川町1-1-0-7	TEL 大分 0975(34)7546
東京電機営業所	113 東京都文京区湯島3-16-1-1	TEL 東京 03(832)5101	宮崎出張所	880 宮崎市紙園町2-1-17	TEL 宮崎 0985(24)1515
城南出張所	150 東京都渋谷区道玄坂1-22-1 墨野ビル7F	TEL 東京 03(464)5711	○福岡電機営業所	812 福岡市博多区店屋町1-3-5	TEL 福岡 092(27)4911
○立川電機営業所	190 立川市富士見町1-1-2-1	TEL 立川 0425(27)6611	久留米出張所	830 久留米市上津町1690-2 第二江崎ビル	TEL 久留米 0942(22)2122
○横浜電機営業所	231 横浜市中区松影町1-4-7	TEL 横浜 045(6)(681)8221	佐世保出張所	857 佐世保市大和町2-0-2	TEL 佐世保 0956(31)3208
相模原出張所	228 座間市相模ヶ丘5-1-7-5	TEL 相模原 0427(42)5466	長崎出張所	852 長崎市橋口町1-9-9	TEL 長崎 0958(44)1201
横浜出張所	239 横浜市中区根岸町3-15-19	TEL 横浜 0468(36)4311	熊本出張所	860 熊本市本荘6-3-1-0	TEL 熊本 0963(71)2205
小田原出張所	250 小田原市浜町3-1-1-1-2	TEL 小田原 0465(22)9271	鹿児島出張所	890 鹿児島市武3-20-16	TEL 鹿児島 0992(56)7281
○静岡電機営業所	422 静岡市馬淵1-5-1-2	TEL 静岡 0542(85)9111			
沼津出張所	410 沼津市西熊堂1-4-7-3	TEL 沼津 0559(21)3677	沖縄コロムビア販売株式会社	901-01 那覇市小緑1-1-8-4	TEL 那覇 0988(57)0770
浜松出張所	430 浜松市向宿町692-6	TEL 浜松 0534(61)4707			

○印には「お客様相談センター」の窓口がありますのでご相談ください。

●本社お客様相談センター TEL 東京03(584)8111 内線317
(〒107) 東京都港区赤坂4-14-14

所在地・電話番号は変更になる場合がございますのでご了承ください。

日本コロムビア株式会社

本社 〒107 東京都港区赤坂4-14-14 TEL03-584-8111

82.7 5118222102

Printed in Japan